

教育学の社会的インパクトを考える

2024. 12.20 (金)

18:00-20:00

zoomウェビナー（事前登録をお願いします。12月19日18時締切）

- 提案 西村 訓弘（三重大学・SIPプログラムディレクター）
草原 和博（広島大学）
伊藤 通子（東京都市大学）
- 指定討論 美馬 のゆり（公立はこだて未来大学）
- 司会・進行 石井 英真（京都大学）
鹿毛 雅治（慶應義塾大学）

研究評価の基準として社会的インパクトを重視する議論等、学問の社会的意義が問われる中、教育学もまた、教員養成等に止まらない社会的問題の解決への寄与のあり方が問われている。学問的な探究において、有用性から距離を置いたところで議論する自由は欠かせないが、一方で特に教育学という学問の性格からすると、広く教育に関わる現実社会の諸課題に無関心であることは難しい。教育学は、そうした問題に対して何かしらの知見を提供する応答責任から逃れることはできないだろう。

では教育学は、どのような社会的インパクトを生み出し、どういう応答責任を果たすことができるのか。そして、文部科学省のみならず省庁横断的に、また産官学民で取り組まれている国家・社会の課題に対して、教育学はどのように向き合っていけばよいのか。例えば、内閣府は、「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」第3期課題より、人文・社会科学的なアプローチが求められる課題群を本格的に設定するようになった。また、イノベーションを、技術的な側面だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の各視点から総合的に推進するようにも求めている。本シンポジウムでは、SIPの取組も参照しつつ、教育学と現実社会との関わり方について考えたい。

【主催】 教育関連学会連絡協議会

【共催】 内閣府SIP第3期

「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）

「デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校」（研究開発責任者：草原和博）

【後援】 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）（申請中）

QRコードからお申し込みをいただけます。

お申し込み後にオンライン会議に必要な情報をご連絡いたします。





提案
西村 訓弘

三重大学 大学院地域イノベーション学研究所・教授

「ポストコロナ時代における教育の意義
—ポストコロSIPの試みから考える—」

筑波大学卒業後、(株)神戸製鋼所、米国企業等の研究員を経て、2000年(株)ジェネティックラボ創業に関わり、2002年から同社代表取締役。2006年に三重大学医学系研究科教授就任、2016年から現職。2020年10月からクロスアポイントメント制度にて宇都宮大学学術院教授・特命副学長。JST共創の場形成支援プログラムPO、第3期SIP「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」PDを兼務。日本学術会議連携委員(経営学委員会)。著書『社長100人博士化計画』(月兎舎)。



提案
草原 和博

広島大学 大学院人間社会科学研究所・教授

「アドボカシーからみた(教科)教育学の責任
—共同開発・共同実施・共同改善の実質化—」

広島大学大学院教育学研究科中途退学。博士(教育学)。兵庫教育大学、鳴門教育大学を経て広島大学。専門は教科教育学・社会科教育学。教育ヴィジョン研究センター(EVRI)の設立に関わる。市民性教育の思想とカリキュラム、教科教育学の研究手法論、教師の意思決定メカニズム、教師教育者の専門性開発等に関心を寄せる。主な編著書・訳書は、『地理教育内編成論研究』(風間書房)、『コモン・グッドのための歴史教育』春風社、『国境・国土・領土教育の論点争点』明治図書出版。



提案
伊藤 通子

東京都市大学 教育開発機構・教授

「イノベティブな社会の構築に向けて教育学に期待すること
—高専教育から大学の教育改革に携わって—」

富山(工業)高等専門学校にて実践的技術者教育に35年間従事、Problem-Based Learningによる実験科目、技術者倫理、社会に役立つものづくり授業などを担当。その後、東京大学特任研究員、NPO法人ESD-J事務局長を経て、2017年より東京都市大学。イノベーション人材育成のためのPBL科目の全学導入、FD、DPに基づく評価の枠組み作り、e-ポートフォリオシステム構築などに携わる。訳書『PBL 学びの可能性をひらく授業づくり: 日常生活の問題から確かな学力を育成する』(北大路書房)他。

指定討論 美馬 のゆり(公立はこだて未来大学 システム科学部・教授)

日本学術会議第26期会員。NPO学び足しデザイン工房代表。東京大学大学院、Harvard大学大学院、電気通信大学院修了。MITおよびUC Berkeley客員研究員。日本科学未来館副館長、NHK経営委員を歴任。学習科学(コンピュータサイエンス、教育学、認知心理学)をもとに学習環境のデザインを行なっている。主な著書『「未来の学び」をデザインする』(東大出版会)、『AIの時代を生きる』(岩波書店)、『未来を創る「プロジェクト学習」のデザイン』(未来大出版会)。

司会 鹿毛 雅治(慶應義塾大学 教職課程センター・教授)

横浜国立大学教育学部卒、慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会特別研究員、慶應義塾大学教職課程センター助手、同専任講師、同助教授、スタンフォード大学客員研究員、東京大学客員教授などを経て、現職。専門分野は教育心理学で、特に学習意欲論、教育評価論、授業論、授業研究論について教育実践に関わりながら研究を進めている。主な著書『モチベーションの心理学』(中公新書)、『学習意欲の理論』(金子書房)、『授業という営み』(教育出版)。

司会 石井 英真(京都大学 大学院教育学研究科・准教授)

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。専門分野は教育方法学(学力論)で、学校で育成すべき資質・能力の中身をどう構造化・モデル化し、それらを実質的に実現しうるカリキュラム、授業、評価、教師教育をトータルにどうデザインしていけばよいのかを考えている。初等・中等教育段階の先生方と協働で、現場での学校改革にも取り組んでいる。主な著書『再増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』(東信堂)、『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』(日本標準)、『教育「変革」の時代の羅針盤』(教育出版)。